

ワイド版 みんな元気だ! はつらつ家族

娘の幸福を願う母の姿

法燈を伝えた親子の信頼の絆

長雨に見舞われた今年は、東北の農家の多くが米の不作で大きな痛手を負った。農作の祝い年もあれば、まれに稲穂に実を結ばない辛い年も来る。

日照りの時は涙を流し、寒さの夏はオロオロ歩き、農民に献身的に奉仕した詩人・宮沢賢治の故郷の岩手県花巻市では、泉説寺住職・三浦亨道師が正信覺醒運動の陣を構え、宮古市の真浄寺とともに県内の正信の二大拠点となっている。花巻市に隣接する北上で

泉説寺所属の藤崎さん一家がたぐましい正信の日々を送っている。そのお話を風の便りに聞き、さっそく訪ねてみた。

東北という、口の重い、閉鎖的な印象を、雪のイメージと重ねて抱きがちである。藤崎さん宅にうかがって、そうした偏見は雲散霧消した。加えて「これは大変なところへ来てしまった」と記者は率直に思った。取材が不可能なほど賑やかなのである。

気用語は「ルクス」という単位であらわすけれど、藤崎家に秘密裡に持参した記者専用の照度計の針は、完全にふり切れた。ちなみに、照度は光源からの距離に反比例する。つまり大聖人の仏法を光源とすれば、そこから離れるほどルクスはどんどん低くなっていくという原理である。

とまかく写真をよくご覧になっていた。これでもまだ控え目な方である。百聞は一見に如かずという諺の重みがひしひしと



ヨネさんは昭和37年に日蓮正宗に入信した。夫と離別し、祖母と三人の娘(幸子さん、登代子さん、真知子さん)をかかえて女手ひとつで生活しなければならなかったこのころ、ひたすら娘たちの将来の幸福を願い、当時小学校に通っ

ていた登代子さんのクラス担任教師の熱心な指導で入信した。洋裁の腕一本が暮らしの支えだったヨネさんが眠る姿を、幼かった娘たちはいそいそと目にするのがなかった。毎日たれより早く床を離れ、押入れを仕切ってしつらえた仏壇の前で唱題し、食事のしたくをし、ミシン踏みで明け暮れ、そしてたれよりおそく床に就くヨネさんの背中を見て、娘たちはすくすくと育っていった。

菩提寺を尋ねると互いに確認

を飛び出してからしばらくは、折伏、座談会、勉強会にと楽しく活動して組織を盛り立てていった。三姉妹にとって創価学会とは、自己犠牲や悔恨とは縁遠い、若さの能動的な表現の場だったかも知れない。

昭和42年、長女の幸子さんが結婚したのを皮切りに、三女の真知子さん、二女の登代子さんが縁あって次々に結ばれた。しかしこのころから、信仰をめぐる事情は、



だから三姉妹の結束はひとかたならず強く、かえって日々の生活は、明るく楽しい生活でいこうとする知恵と努力に満ちたものとなった。

三姉妹のそれぞれの夫は、妻を愛する半面、一様に組織に対しては冷やかだった。そんな理由で、ことに真知子さんは、心臓に先天

性の疾患を持つ子の回復を祈るあまり、信仰に反対する夫の目を盗むようにして学会活動に励んだ時期がある。親として、子の病に接する時ほど切ないものは、当然ながら御本尊に向う姿勢は、以前とは異なった真剣さを帯びていた。善きにつけ悪きにつけ、子供に対する慈愛は親をさらに親しく変えるものである。

印刷会社「プリントショップ・フジサキ」の代表取締役。この会社を設立した昭和55年には、仕事を妻の登代子さんにまかせ、他の事務機会社の雇われ社長として勤務する毎日だった。あまりにも大きい登代子さんの内助の功については、ここでは触れない。

昭和58年、秀男さんは意を決してレストラン経営に取り組むことにした。ところが開店後は赤字つづきで大きな負債を背負い、結局

店是一年とたたず倒産の憂き目を見た。その一方で、昭和57年に新築した現在の家屋のローン返済も重なるなど、藤崎家の財政はダブルパンチに見舞われ、一時は万策つくたかに思えた。

しかしこれも三姉妹・三家族の結束による力はいかなる発揮された、肝煎を伴った結果、危機はなんと乗り越えることができたのである。「フジサキ」の経営の方も昭和61年ごろから軌道に乗り出し、「とりあえず、北上市でナンバーIIの印刷会社を」と将来の目標を秀男さんは控え目に語る。経営戦略というより手強いが、秀男さんは、事業規模の拡大それ自体を目標として掲げているわけではない。

「二つの会社だから、従業員の待遇に対する配慮、製品に対する信頼と責任など当然ついて回る。そういうレベルでも会社を一流にしていきたいと思えますが、むしろうちでは、どんな状況に陥っても、家族が団結してお寺を守っていく」と、いつも互いに確認し合っている。菩提寺を守るのが家族の根本だと思っています。

三姉妹・三家族の信条を、秀男さんに代表して表明していただいた。父親としての武久さん、秀男さん、豊さんに、子供たちへの法燈相統の期待を尋ねると、一様に「信頼している」。一番短い答えが、いちばん良い答えだと、どこかで聞いたことがある。これもおばあちゃんのヨネさんがもたらした「宝」である。

写真(下段)は、記者の記憶を信憑すれば前列左から輝子さん、幸子さん、ヨネさん、真知子さん、真紀さん、中列左から美由紀さん、友紀さん、豊さん、登代子さん、豊さん、後列左から武久さん、美千代さん、秀男さん、信男さん、武幸さんで、三姉妹・三家族15人が全員集合。